

# 考人



## 高校時代に読んだ本

中川 泰

本来は高校時代に読むべき本とでもしたほうがよいのかもしれませんが、人それぞれ好みや受け取り方は違うので、とりあえず私が玉高時代に読んだ本を紹介します。

高校の頃の私は、戦国時代や幕末に限らず、歴史小説が好きでした。高1の夏は、『三国志』にはまりました。教室の後ろに置いてあった横山光輝の漫画を見て興味を持ち、吉川英治の『三国志』を文庫本で読みました。それでも気持ちが治まらず、漢文の三国志（上の方に漢文、下の方に書き下し文がついていた。）を読みました。かなり古く分厚い本で、わからない漢字ばかりでしたが、あらすじがわかっているのでおおよその意味は掴めました。同じ内容でも、漢文で読むと趣が異なり、格調の高さを感じられました。（だからといって、漢文が特に得意にはなりませんでしたが・・・）

高2になると司馬遼太郎にのめり込みました。著名な方なので、読んだことがあるという人も多いでしょう。『梟の城』、『項羽と劉邦』、『燃えよ剣』、『花神』、『坂の上の雲』など、夢中になって読みました。タイトルだけで感じるのですが、最近流行っているアニメ『鬼滅の刃』や『キングダム』が好きな方なら、これらの作品をきつと楽しく読めるのではないのでしょうか。

今回の『考人』では、司馬遼太郎の作品の中から特に中高生の間に読んで欲しい本として『竜馬がゆく』を紹介しよう。



私は高2の夏に読みました。文庫本で全8冊ですが、一気に読んでしまいました。

江戸や京から遠く離れた土佐の下級武士（郷土）の次男坊として生まれた竜馬の生涯は、幕末維新史上の奇跡といわれています。江戸での剣術修行後、脱藩し、浪人の身でありながら、この大動乱期に幕臣勝海舟に師事、海援隊を設立し、長州の桂小五郎や薩摩の西郷隆盛とともに「薩長同盟」や「大政奉還」等、卓越した仕事を成し遂げました。

この作品は、史実に基づきながら、司馬遼太郎の人間竜馬に対する丁寧な研究をもとに描かれています。今回、数十年ぶりに読み返してみました。が、忘れていたことも多く、歴史とは思えない物語のような内容で、楽しく読むことが出来ました。高校生の頃と同じように「薩長同盟」や「大政奉還」とは、令和の時代ではどのような出来事に値するのか、竜馬が存在しなかったら、明治維新は違ったものになったのではないかなど、改めて考えさせられました。

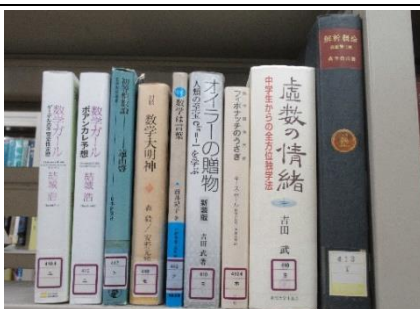
一方で、高校生の時には感じなかったことですが、今回は書かれている事柄が史実なのか、作者が創作したフィクションなのかということが、とても気になりました。また、この作品が書かれた五十年前にはグローバル人材という言葉はなかったはずですが、作者が竜馬の中に、現代の若者に求められるグローバル人材としてのイメージを持っていることなど、新しい発見もありました。クライマックスで、薩長両藩による武力による

倒幕を主張する中岡慎太郎に、「しかない、というものは世にない。人よりも一尺高く物事を見れば、道は常に行く通りもある」と、大政奉還を働きかける竜馬の言葉が強く印象に残りました。鎖国状態の幕末という混沌とした時代の中、常識にとらわれず常に前を向き、不可能なことを一つひとつ実現していく姿から、今の時代で生きる我々も学ぶことはたくさんあると思います。

まだ読んだことがないという人は、中高生のうちに是非読んで、この本を楽しみたいと自分にこれからの自分自身の生き方を考えて欲しいです。

皆さんの中には、勉強や部活動など、やるべきことが多い中学・高校生活の中で、読書から遠ざかっている人もいるかと思いますが、幸い本校には蔵書数八万九千冊を誇る、県下でも有数の素晴らしい図書館があります。（私が入学するちょっと前に出来たものです。）

人生の中で誰と巡り会うかと同じくらい、どのような本と巡り合うかは重要なことではないでしょうか。きっかけはどうかあれ、本を手にとってください。皆さんが、中学生・高校生の多感な時期に、逢うべき本に出逢えることを願っています。



○最後に数学科の教員として本校の図書館においてある数学の本を紹介いたします。

高木貞二の『解析概論』など、上の写真のように玉名高校には専門的な本もたくさんあります。

高校数学の向こう側をのぞいてみたい人は手にとって挑んでください。